

消費者動向調査 No.122

テーマ「夏のボーナス使いみち調査」

- ◆ 調査時期 2018年5月
- ◆ 調査対象 福岡県内のボーナスがある家庭の500人
(うち男性242人、女性258人)

- ◆ 回答者区分

A.年代

	%
20代	14.6
30代	25.4
40代	20.0
50代	21.8
60代	18.2

B.あなたのご家庭で

ボーナスがあるのは

	%
夫だけ	74.4
妻だけ	9.6
両方	16.0

※当調査は情報提供を目的として作成されたものであり、その正確性・確実性を保証するものではありません。

西日本シティ銀行
NCBリサーチ&コンサルティング

[調査結果本文]

内閣府は5月の月例経済報告で、「景気は、緩やかに回復している。」と発表しています。先行きについては、「雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。」としています。

このような中、消費者はこの夏のボーナス受給額をどのように予想し、どのように消費しようと考えているのでしょうか。ボーナス受給を間近にひかえ、福岡県在住の家庭を対象に夏のボーナスについての消費動向をたずねました。

なお、女性の就業率や共働き世帯の増加を背景として、今回より調査対象者を男性・女性（従来は女性のみ）としたほか、調査方法をインターネットによるアンケート（従来は文書）回答方式に変更しています。

そのため、前年よりもデータが大きく変動している設問がありますが、調査方法の変更に伴う補正は行わず、前年との単純な比較を実施しています。

◆ 今年の夏のボーナス、前年夏と比較して「多くなる」は 5.9 ポイント減少。

夏のボーナスが前年夏より「多くなる」と予測する割合は 5.9 ポイント減少し 15.2%となった。「少なくなる」は 8.5 ポイント増加し 19.2%、「同じくらい」は 2.6 ポイント減少し 65.6%であった。

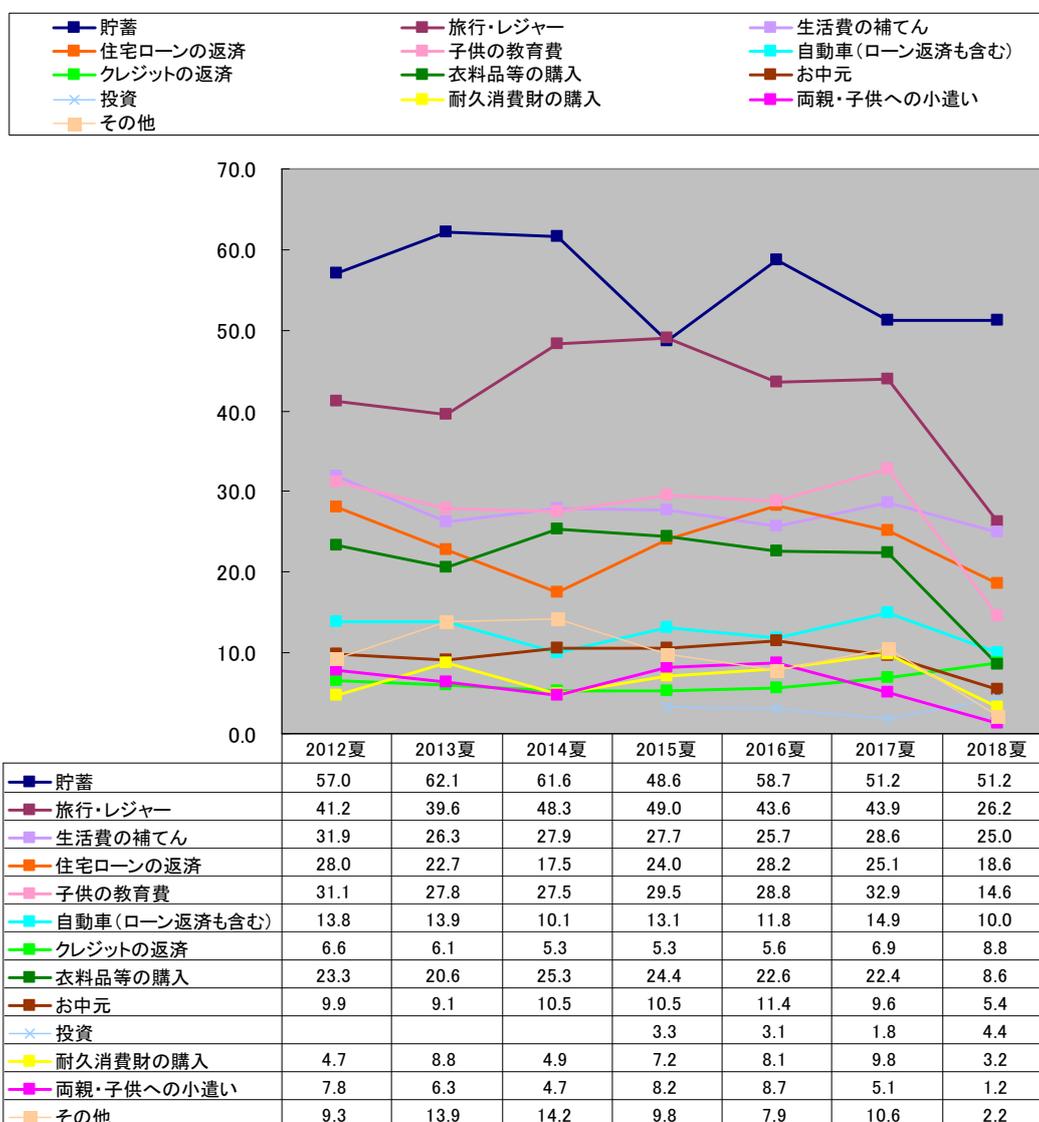
[グラフ1：夏のボーナスは昨年に比べどうなると予想していますか]（単位：%）



◆夏のボーナスの使いみち予定、1位は「貯蓄」で51.2%。2位は「旅行・レジャー」で26.2%。

夏のボーナスの使いみち予定、1位は「貯蓄」で51.2%。これは前年夏の51.2%から横這いであった。2位は「旅行・レジャー」で17.7ポイント減少して26.2%。3位は「生活費の補てん」で25.0%となった。

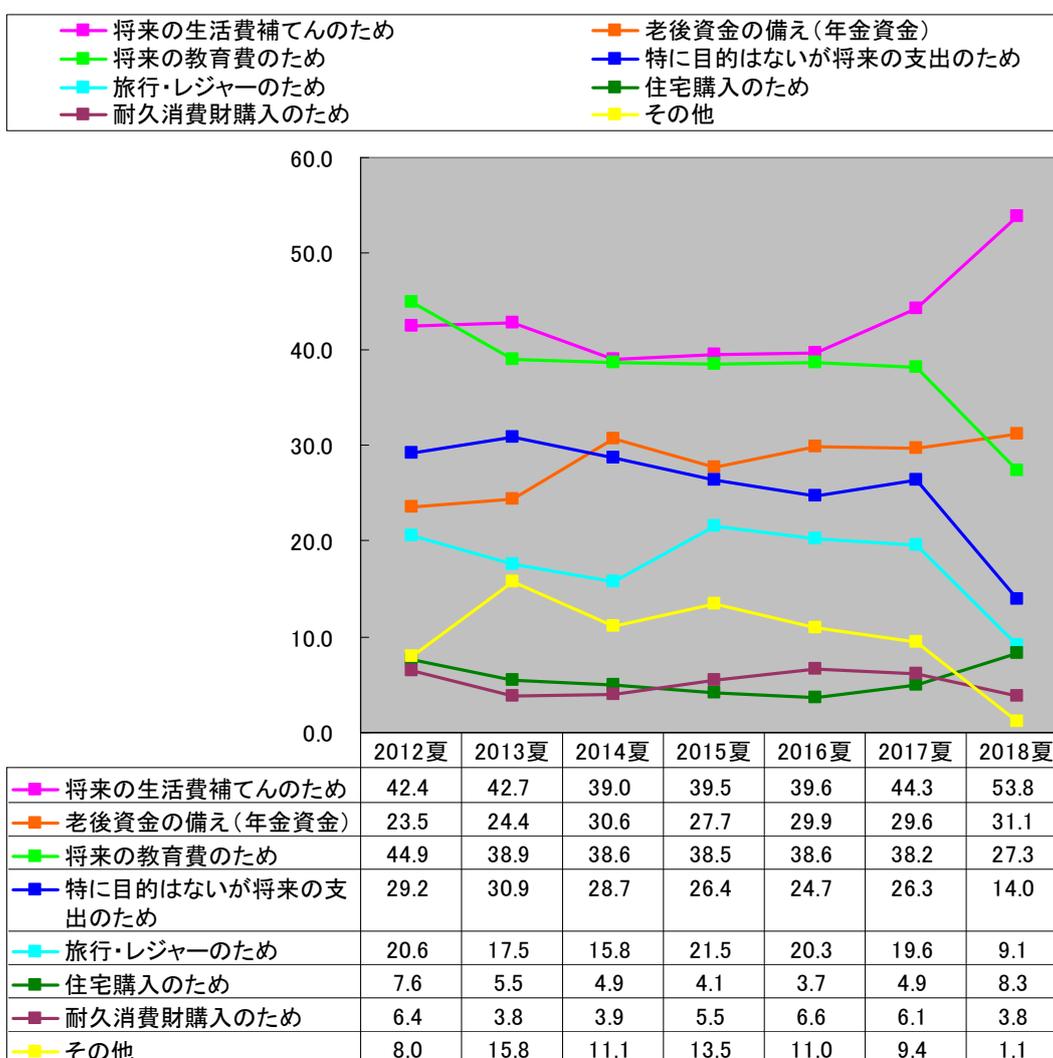
[グラフ2：夏のボーナスは何に使う予定ですか（3つまで）] (単位：%)



◆ボーナスを貯蓄・運用する目的、1位は「将来の生活費補てんのため」で53.8%。2位は「老後資金のため」で31.1%。

夏のボーナスを貯蓄する目的の1位は、「将来の生活費補てんのため」で前年夏に比べ9.5ポイント増加し、53.8%。2位は「老後資金のため」で1.5ポイント増加し31.1%であった。引き続き将来への備えが上位を占めた。

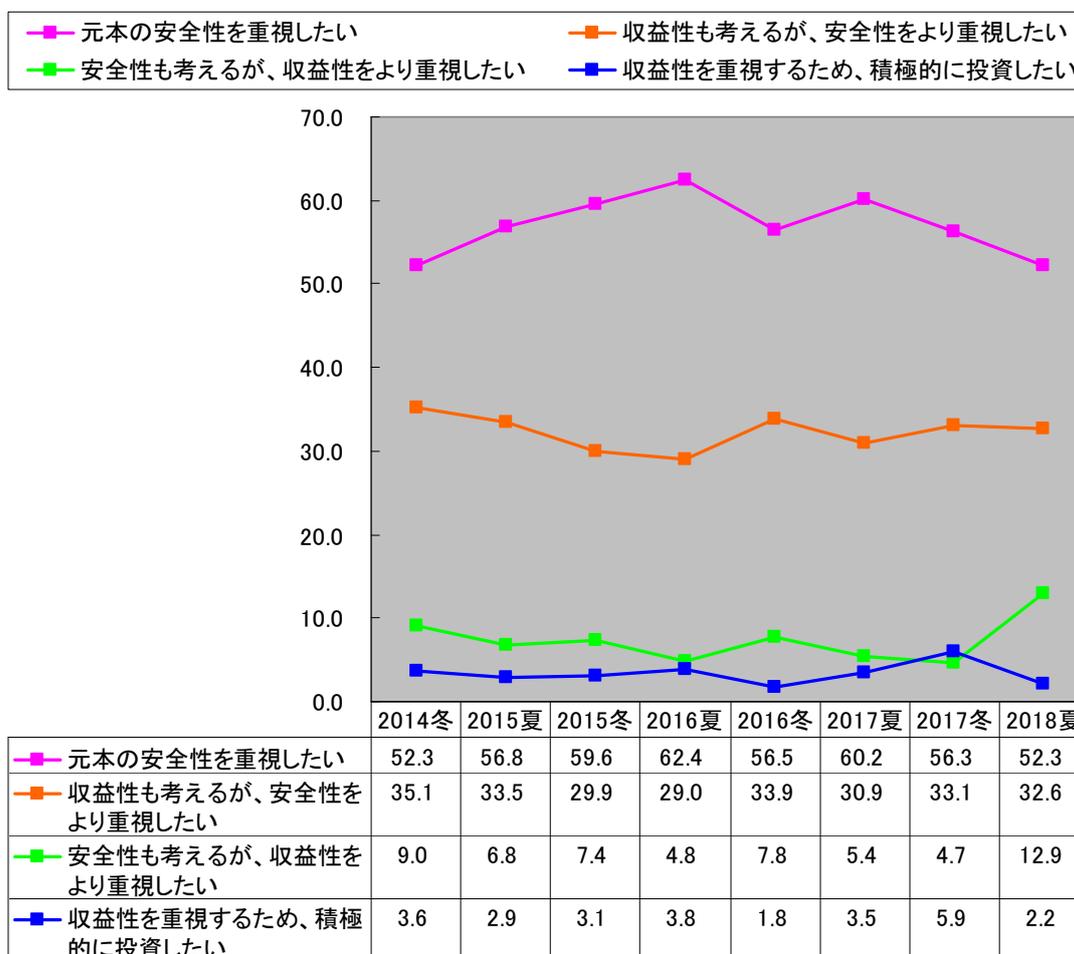
[グラフ3：将来の何のために夏のボーナスを貯蓄・運用しますか（2つまで）]
（単位：％）



◆夏のボーナスを貯蓄・運用する場合の考えは、「元本の安全性を重視したい」が1位で、52.3%。

「元本の安全性を重視したい」が、前年の冬から4.0ポイント減少の52.3%で、16期連続の1位。「収益性も考えるが安全性をより重視したい」が前年の冬から0.5ポイント減少して32.6%。収益性を重視する割合が高まりつつある。

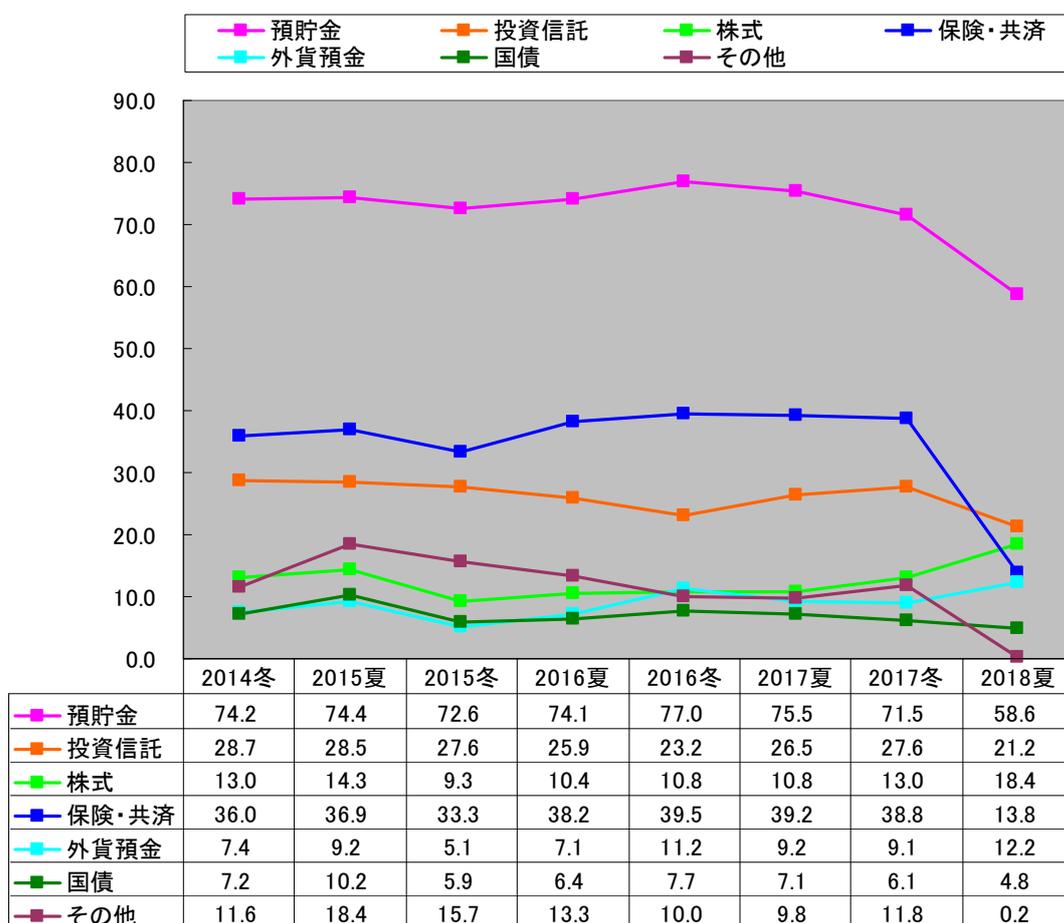
[グラフ4：夏のボーナスを貯蓄・運用する場合、あなたの考えに近いのは]
(単位：%)



◆関心がある金融商品、1位は「預貯金」で前年の冬より12.9ポイント減少し58.6%。

現在関心がある金融商品は「預貯金」が58.6%で1位。2位は「投資信託」で21.2%。安全資産への関心は依然高いものの、低金利の影響もあり「預貯金」、「保険・共済」への関心が低下する一方、「株式」、「外貨預金」への関心が高まった。

[グラフ5：どのような金融商品に関心がありますか（いくつでも）]（単位：%）

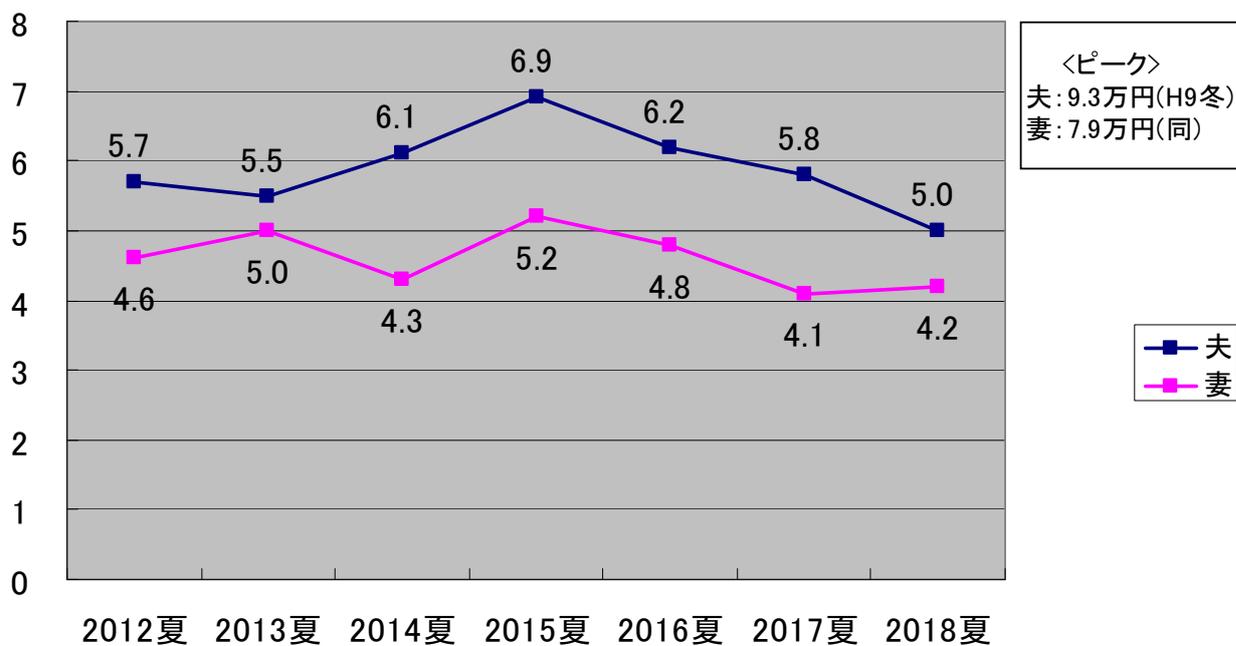


◆夏のボーナス、自由に使える金額は、前年夏に比べて夫は 8 千円ダウン。妻は 1 千円アップ。

夏のボーナス、夫が自由に使える金額は平均 5.0 万円（前年夏比 8 千円減）。妻が自由に使える金額は平均 4.2 万円（前年夏比 1 千円増）。夏のボーナスが「多くなる」との予想が減少したことを受け、夫の自由に使える金額は前年の夏から減少した。

[グラフ 6 : 夏のボーナス、自由に使える金額はどれくらいですか]

(単位 : 万円)



この調査に関するお問い合わせ先は
 西日本シティ銀行 広報文化部 長谷川 TEL 092-461-1869
 NCB リサーチ&コンサルティング 調査部 原 TEL 092-476-3051